

THE

BEHIND

特注照明を手がける、株式会社ワイ・エス・エムが表参道にて新作展示会を開催

## 「BEHIND THE LIGHT Vol.2」

2025 年のミラノデザインウィークで発表された作品を含め一同に展示

参加デザイナー | AATISMO / Atelier matic × ONE KILN / Baptiste Vandaele / Hiroto Yoshizoe /  
JUNICHIRO YOKOTA STUDIO / Kotaro Usugami / NAO IWAMATSU / RYOSUKE AKAGI DESIGN

会場 | TIERS GALLERY by arakawagrip 東京都渋谷区神宮前 5 丁目 7 - 12 TIERS 3F  
会期 | 2025 年 10 月 16 日 (木) - 19 日 (日) 木金 16:00 - 20:00, 土日 12:00 - 20:00  
レセプション・パーティー | 2025 年 10 月 17 日 (金) 18:00 - 21:00

株式会社ワイ・エス・エム (Y.S.M) [本社：埼玉県八潮市、代表取締役：八島 哲也] は、企画展「BEHIND THE LIGHT Vol.2」を東京・表参道の TIERS GALLERY by arakawagrip にて、2025 年 10 月 16 日 (木) から 19 日 (日) の期間、開催いたします。

本展は、2022 年に創業 30 周年を記念して実施された展示に続く第 2 回目の開催です。参加するのは、国際的に活動し次世代のデザイン界を担う注目の若手デザイナー 8 組—— AATISMO、RYOSUKE AKAGI DESIGN、Baptiste Vandaele、NAO IWAMATSU、Atelier matic × ONE KILN、Kotaro Usugami、Hiroto Yoshizoe、JUNICHIRO YOKOTA STUDIO。今年 4 月の「ミラノデザインウィーク」で発表した作品をはじめ、最新作を一堂に展示します。

人々が光に込める思いの深さを形に—— 私たちのものづくりのこれから

本展では、効率化や大量生産が優先される今の時代に、あえて「少人数で、特注で、時間をかけてつくる」ことの意味を問いかけます。デザイナーと共に制作することで生まれる作品や空間を通じて、私たちのものづくりの価値を体感いただけます。

Y.S.M は、設計から製造、組み立てまでを一貫して行う小さなチームです。デザイナーと同じ目線で向き合い、アイデア段階から完成まで共に歩みながら形にしていきます。それは単なる製品ではなく、人と人との想いや関係を込めた「光」を生み出すことを目指しています。光は、世界中どこでも夜になれば灯される普遍的な存在です。海外市場への挑戦を通じて、その普遍性と、人々が光に込める思いの深さを改めて実感しました。その光が、誰かの毎日を少し幸せにする——その喜びを、本展を通して共有したいと考えています。



## 作品名

Seed

## デザイナーコメント

「Seed」は、円盤状の半透明の発光面と、そこに取り付く半円状の細い金属フレームで構成されています。発光面はぼんやりと背景を透かし、生命を感じさせる暖かい光を発します。フレームは発光面を保護するだけでなく、持ち運ぶ際の把手となり、壁のフックなどに引っかけることもでき、床に置いた際には発光面を立たせて周囲に光を届けます。物や風によって運ばれ、その生存範囲を広げていくように、「Seed」は人々に寄り添うことで、様々な場所で光を届けます。2025 年ミラノサローネのサローネサテリテで展示。

## Y.S.M コメント

見た目はすっきりとミニマルですが、これまでで最も痺れるほど難しかった照明かもしれません。パイプを曲げて半割にし、さらに内径を削る加工は、協力会社も「過去一番の難しさ」と口をそろえるほど。三次元レーザーだけでは精度が出ず、そこから機械加工で削り込む荒業に挑んでももらいました。光源には、面発光する拡散材入りアクリルを SEED 用に樹脂メーカーと開発。光源を避けるためのネジ位置調整や、半割にした部材同士の隙間を均一にする作業にも、細心の工夫を凝らしています。

## designer profile

AATISMO は建築家・デザイナーである海老塚啓太、工業デザイナーの中森大樹、建築家の梶永絵理子の 3 人によるデザインチーム。アートとテクノロジー、原初と未来、そして野生の思考と科学的思考の融合を図り、建築・デザイン・アートなど分野を横断した活動を通じて様々な物事の本質的価値を探索している。LEXUS DESIGN AWARD 2015 Prototype Winner, KOKUYO DESIGN AWARD 2016 グランプリ, iF Design Award など受賞。またデザインした照明は Lumina や Giorgetti などのイタリアのブランドで製品化されている。

<https://www.instagram.com/aatismo/>

## AATISMO







press release 19 Sep. 2025

作品名

## LIGHT HOUSE

デザイナーコメント

生活の中に溶け込む、日常使いのできる ONE KILN の器を再構築して作り上げた陶器の照明“LIGHT HOUSE” 表面の釉薬を通して生まれる光の表情が魅力的なシリーズです。

Y.S.M コメント

陶器は私たちにとって馴染みの薄い素材だったため、どこまで要望を実現できるのかをデザイナーと相談しながら進めました。複数の高さ違いをつくるにあたり、光源部は同形状で統一し、アルミの丸パイプで長さを調整することで対応しています。ただし、パイプと天面のフタを溶接するとどうしても傾きが生じ、そのままでは陶器のフタまで傾いてしまいます。そこで表裏両方から旋盤で削り、精度を追い込みました。特にΦ 30mm の内径で深さ 150mm のパイプの中から裏側を旋盤で削る作業が特に大きな苦勞のひとつでした。最終的には白の焼付塗装で仕上げ、金属感を抑えて陶器に寄り添う器具にしています。

designer profile

Atelier matic × ONE KILN

Atelier matic / 外山翔 空間デザイナーとして店舗設計や展示会などのイベント会場構成、PARCO や東京ミッドタウン等のディスプレイデザインを手掛ける。また、自然物と人工物の融合を得意とし、石や木、アクリルなどを使用したアートピースを制作し、国内外で展示を行なっている。 <https://matic.jp.net>

ONE KILN / 城戸雄介 2008 年に鹿児島市で陶器工房「ワンキルン」(「ひとつの窯」の意味)を設立。「MADE IN KAGOSHIMA」を掲げ、桜島の火山灰を釉薬に用いた「ASH シリーズ」や、自ら掘り起こした地元の土を使用した「CULTIVATE シリーズ」など、地元素材を生かしたテーブルウェアを制作している。 <https://onekiln.jp>



Y.S.M Co., Ltd.



## 作品名

Lineair

## デザイナーコメント

Lineair は、複数の面が組み合わさって構成される幾何学的な形状のテーブルランプです。板金の精巧な技術でしかない Lineair の形状は、直線の美しさを際立たせます。面同士が向き合い反射によって広がる光は、間接照明の優雅な演出を生み出してくれます。Lineair は単なる照明器具に留まることなく、その存在自体がアート性を持ち、空間のアクセントになります。Lineair のデザインは、素材の使用、構造、スタイルにおいてバウハウス芸術運動からのインスピレーションを鮮明に表現しました。

## Y.S.M コメント

フランスでの出展中、デザイナーから初めて提案を受けたときは「作れるだろう」と感じ、すぐに試作を決めました。しかし実際に取り組んでみると、設計・製作には想像以上の工夫と苦労が必要でした。金属部品では、3つのパーツを仮止めする前に接地面をサンダーで開先加工し、溶接では裏波が出ないように細心の注意を払いました。裏波が出ればアクリルに干渉してしまうため、仕上げには大きな手間がかかります。さらに溶接ビードの直線や曲げ R の大きさを揃え、美しく見えるよう仕上げました。アクリルは外から見えるのはわずか2面ですが、その形を維持するために6枚をすべてテーパーカットして接着しています。熱をかけて曲げたり、V溝を入れて試したり、真空成型の会社に相談したりもしましたがうまくいかず、最終的に自分たちで加工方法を確立しました。協力会社が見つかるまでは、1辺ずつ目で確認しながら手作業でテーパーをつける根気のいる作業を繰り返しました。

## designer profile

Baptiste Vandaele

Baptiste Vandaele はベルギーを拠点に国際的に活動するデザイナー。1999年コルトレイク生まれ。高校で美術と建築を学んだことをきっかけに創作へと進み、18歳で全国デザイン賞に選出。Howest Universityでインダストリアルデザインを修了後、ロンドンの Royal College of Art に合格するも進学を見送り、自身のスタジオを設立した。以来、デンマークやイタリア、日本、フランスをはじめとする国際的な舞台でコレクションを発表し、新しい視点をもたらす作品で注目を集めている。

<https://www.baptistevandaele.com>







## 作品名

ubique

## デザイナーコメント

ubique (ウビークエ) は金属、絹、ワイヤーを用いて構成され、空間と知覚に影響を与える動的な装置として機能します。その作品の中核をなすのが、荒川技研工業株式会社が製造するワイヤーハンギングシステム、ARAKAWA GRIP です。この機構により、ワイヤー上のパーツを自由に配置することができ、全体の姿や、光や影の効果を調整することができます。ubique はラテン語で「遍在すること」を意味します。この作品は光や影という無形の要素が素材や空間へと浸透し、あらゆる場所に遍在しうる様子を映し出します。

## Y.S.M コメント

Y.S.M としては LED への配線接続とアクリル部材の組み込みが中心で、大きな難所はありませんでした。ただ一つ想定外だったのは、使用予定だった配線の在庫が社内にもメーカーにもなく、調達に奔走したことです。思いのほか探し回ることになりましたが、最終的には代替を確保し、無事に製作を進めることができました。

コラボレーション：荒川技研工業株式会社

制作協力：株式会社松井機業、有限会社落合製作所、シーフォース株式会社

## designer profile

Hiroto Yoshizoe

1986 年生まれ。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科卒業。独立後、都市開発や商業施設開発等の空間デザインを主軸としたクライアントワークに従事。制作活動では日本の文化背景や宗教観と通ずる「変化」「動き」「時間」といった不完全で流動性のある事象を扱う。なかでも変容し続ける「光と影」の要素を軸に探究。すべての事物（素材）は光と影を瞬間的にかたちに留め、認知するための媒体であると捉え、その間に生じる現象と知覚の関係性を用いて制作を行う。HUBLOT DESIGN PRIZE 2022 Finalist、LEXUS DESIGN AWARD 2017 グランプリなど受賞多数。京都芸術大学非常勤講師。  
<https://www.hirotoyoshizoe.com>





## 作品名

Toi

## デザイナーコメント

和紙で作られた複数個のシェードを必要に応じた高さに調整することができる照明。シェードを分けることで広範囲に光を当てたり、まとめる事で限定的な光にも変化します。「Toi」という名前は、フランス語で「君、あなた」という意味。光の高さを上下することで「あなた」の高さにして欲しい、あなたのライトにして欲しいという思いを込めたものです。

## Y.S.M コメント

灯具の中央をワイヤーが貫通する構造のため、LED の選定には工夫が必要でした。乳半アクリルパイプで拡散した光を厚みのある和紙シェードに届けるため、放熱が許容される範囲で最も明るいLEDを選定しています。さらに、空間の印象を損なわないよう、配線は特注で白の細線を製作し、存在感を抑えました。

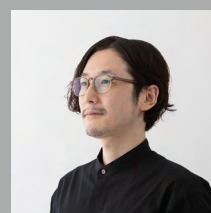
## designer profile

## JUNICHIRO YOKOTA STUDIO

### プロダクトデザイナー

オランダ Design Academy Eindhoven 留学後、デザインオフィス、大手電機メーカーを経て JUNICHIRO YOKOTA STUDIO を設立。日用品から電化製品までのプロダクトを中心に戦略開発からアウトプットまで一貫したデザイン活動を行っている。クライアントが抱えている課題を解決するだけでなく、固定概念にとらわれない視点や手法を積極的に取り入れる事で新たな発見や価値の創出を日々探求しながら活動している。

<https://junichiroyokota.com>







press release 19 Sep. 2025

## 作品名

Kaleido

## デザイナーコメント

Kaleidoとは、ギリシャ語の "kalos"(= 美しい)、"eldos"(= 形態)を語源とする単語で、変幻極まりない、二度と同じ形には出来ないという意味を持ちます。万華鏡の語源でもあります。今作品ではカメラレンズなど使われるオプティカルガラスの端材を使用しており、リサイクルという観点だけではなく、その素材の魅力を最大化し普遍的な美しさと価値を付与する事を目指し製作されました。生まれる模様は、同じ模様になる事はなく幻想的で唯一無二のガラス照明が完成します。

## Y.S.M コメント

上下にLEDを配置する際、渡しの配線をできるだけ短くして影を防ぎたい一方で、短くすると手が入らず作業が難しくなるという課題がありました。作業性と仕上りのバランスに悩みましたが、試行錯誤を重ねることで最終的には配線を収め、影の出ない仕上がりを実現しました。

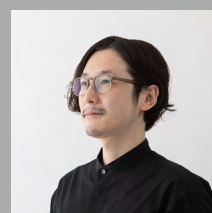
## designer profile

### JUNICHIRO YOKOTA STUDIO

#### プロダクトデザイナー

オランダ Design Academy Eindhoven 留学後、デザインオフィス、大手電機メーカーを経て JUNICHIRO YOKOTA STUDIO を設立。日用品から電化製品までのプロダクトを中心に戦略開発からアウトプットまで一貫したデザイン活動を行っている。クライアントが抱えている課題を解決するだけでなく、固定概念にとらわれない視点や手法を積極的に取り入れる事で新たな発見や価値の創出を日々探求しながら活動している。

<https://junichiroyokota.com>





press release 19 Sep. 2025

作品名

Condivi

デザイナーコメント

CONDIVI は、イタリア語で「共有する・分かち合う」を意味し、灯りを共有することを目指したポータブル照明。灯りを分かち合う事でより便利になるだけでなく、誰かと共有することでコミュニケーションやストーリーを生み出し、より豊かな時間へと導きます。複数人と光を共有する事に特化しており、左右に延びた形状となっています。また上部の発光面は、360°動く構造になっていてちょうど良い光の共有が可能となります。

Y.S.M コメント

内部の基盤寸法が決まっていたため、その制約を踏まえてデザイン通りに押しボタンや C 端子を配置しつつ、確実に固定できるよう設計し製作しました。組立面では、首振り機構の可動部に配線を通す必要があり、狭い経路で断線を防ぐ工夫が必要でした。

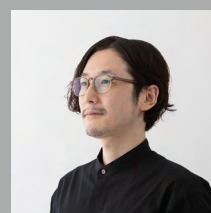
designer profile

JUNICHIRO YOKOTA STUDIO

プロダクトデザイナー

オランダ Design Academy Eindhoven 留学後、デザインオフィス、大手電機メーカーを経て JUNICHIRO YOKOTA STUDIO を設立。日用品から電化製品までのプロダクトを中心に戦略開発からアウトプットまで一貫したデザイン活動を行っている。クライアントが抱えている課題を解決するだけでなく、固定概念にとらわれない視点や手法を積極的に取り入れる事で新たな発見や価値の創出を日々探求しながら活動している。

<https://junichiroyokota.com>



Y.S.M Co., Ltd.





press release 19 Sep. 2025

## 作品名

## Moment

### デザイナーコメント

筒が互い違いに繋がり、まるで時が止まったような感覚をもたらす照明。薄くても強度があるステンレス素材の特性を最大限に活かすことで、彫刻的で浮遊感のあるデザインが生まれました。ありふれた規格品を高度な金属加工技術で仕上げ、オブジェとしての存在感を追求しています。時が止まったように感じるデザインは耐久性・リサイクル性に優れる素材の永続性を示唆しており、長さの異なる筒の連続が空間に心地よいリズムをもたらします。

### Y.S.M コメント

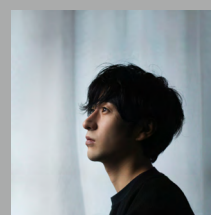
塗装を施さない仕上げのため、溶接後の研磨でキズを付けないよう細心の注意が必要でした。また、限られたスペースに基板やバッテリー、配線を収める構造を検討し、基板・LED・底蓋を確実に固定できるよう設計と製作を進めました。さらに、これまで扱ったことのないセンサーや充電式機構にも初めて挑戦したため、原因の特定が難しい誤作動に直面するなど、多くの試行錯誤を重ねながら完成へと辿り着きました。

### designer profile

### Kotaro Usugami

1991年福島県生まれ。金沢美術工芸大学美術工芸研究科デザイン専攻製品デザインコース修了。2016年より時計メーカーにて腕時計のデザインに従事。その後デザイン事務所 UUD™ を設立。フィジカルな試行錯誤によるプロダクトデザインのプロセスを軸に、製品単体のデザインに留まらず包括的なアプローチを実践している。また、素材や加工技術への洞察に重きを置き、特に金属素材の美しさを引き出すデザインをライフワークとしている。EDIDA Young Japanese Design Talent 等受賞多数。日本大学生産工学部機械工学科非常勤講師。

<https://www.kotarousugami.com>



Y.S.M Co., Ltd.



press release 19 Sep. 2025

## 作品名

Sail to the moon

## デザイナーコメント

アルミの結晶模様加工を活かしたブラケットライト。傾けるたびにきらきら光るアルミ板を照明の反射板に取り入れることで、光の角度によって表情が変化する幻想的なプロダクトが生まれました。光に対して自在に角度を変えられることができる帆のような構造に、太陽と月の関係を重ね合わせ「Sail to the Moon」と名付けています。

## Y.S.M コメント

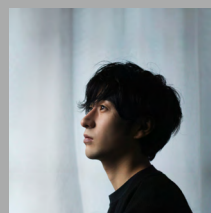
アルミの結晶に光を当て、その煌めきを壁面に映し出すには、光の強さの調整が最初の大きな課題でした。弱すぎれば煌めきは生まれず、強すぎれば小さな灯具の中で放熱が追いつきません。ちょうど良い塩梅を探し出すのに苦労しました。もう一つの課題は、角度を変えられる可動部です。実際に作ってみなければスムーズに動くか予想できず、さらに灯体の中に機構を収める必要がありました。放熱との兼ね合いや配線の取り回しを組立の担当と綿密に相談しながら設計を重ね、最終的に滑らかな可動と安定した光を両立させることができました。

## designer profile

Kotaro Usugami

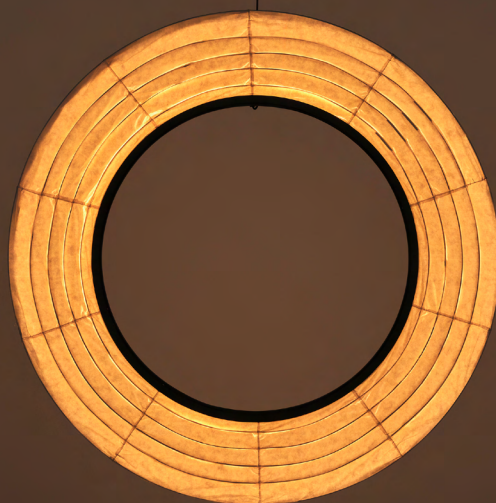
1991年福島県生まれ。金沢美術工芸大学美術工芸研究科デザイン専攻製品デザインコース修了。2016年より時計メーカーにて腕時計のデザインに従事。その後デザイン事務所 UUD™ を設立。フィジカルな試行錯誤によるプロダクトデザインのプロセスを軸に、製品単体のデザインに留まらず包括的なアプローチを実践している。また、素材や加工技術への洞察に重きを置き、特に金属素材の美しさを引き出すデザインをライフワークとしている。EDIDA Young Japanese Design Talent 等受賞多数。日本大学生産工学部機械工学科非常勤講師。

<https://www.kotarousugami.com>



Y.S.M Co., Ltd.





## 作品名

ALBA

## デザイナーコメント

ALBA は、光源と提灯の関係を現代の技術を前提に再構築することで、現代的でありながら時代を超えて人々を魅了するアイコン的な光の彫刻としてデザインしました。すり鉢形状が合わさった和紙のリングは、その象徴的な存在感で人々を魅了すると同時に、空間を柔らかな間接光で包み込みます。この構造は水平・垂直どちらの向きでも吊るすことができ、専用のベースと組み合わせることでウォールランプやフロアランプとしても機能します。

## Y.S.M コメント

Φ 566mm に曲げた板にΦ 600mm のリングを全周溶接した際、大きな歪みが生じました。歪みがひどいと外側リングと提灯のビス穴が合わず組み立てができないため、歪み取りには特に苦労しました。さらに、内側に貼るテープ LED のピッチが合わず暗部が生じたため、厚さ 2mm のアルミを巻いて外周を広げ、均一な光を実現しました。両サイドを欠いた部分から漏れる光についても、近い色の遮光シートを貼ることで丁寧に対処しています。

提灯制作：小嶋商店

## designer profile

NAO IWAMATSU

東京を拠点に活動するインダストリアルデザイナー。“Narrative Minimalism | 語りかけるミニマリズム”をテーマに掲げ、機能的でありながら、ミナルなフォルムと明快な構造を探索する過程で詩的な存在感をプロダクトに纏わせることを探索する。日本の伝統文化や現代のものづくりへの問いなどを起点にする、独自のアナログカルなアプローチを用いて、素材や技術の特性・企業の思想やビジョンを体現するデザインを数多く手掛ける。奈良県生まれ。京都工芸繊維大学大学院修了。  
<https://naoiwamatsu.com>





press release 19 Sep. 2025

## 作品名

Shaku

## デザイナーコメント

SHAKU は、「光を注ぐ」というコンセプトのもと、日本の神社や寺院で使われる柄杓の伝統的な構造から着想を得てデザインしました。日本の伝統的な木製の柄杓は、分解できるように作られており、壊れた部分だけを交換することで、何十年、時には何世紀にもわたって使い続けることができます。SHAKU の照明デザインにおいても、この考え方を取り入れ、露出したワイヤーを特徴とすることで、分解を容易にし、角度の自由な調整を可能にしています。

## Y.S.M コメント

デザイナーによる設計案はすでに完成度が高く、私たちの課題は可動部と光源部でした。可動時に傷がつかないよう工夫しながらトルクを調整し、試作を重ねて納得のいく機構を作り上げました。光源はフロアスタンドでありながら非常に小さく、強い光が求められました。そこで、今までの製作経験を基に最適な LED を選定。小型でありながら高い演色性と十分な光量を両立させることに成功しました。

## designer profile

NAO IWAMATSU

東京を拠点に活動するインダストリアルデザイナー。“Narrative Minimalism | 語りかけるミニマリズム”をテーマに掲げ、機能的でありながら、ミニマルなフォルムと明快な構造を探索する過程で詩的な存在感をプロダクトに纏わせることを探索する。日本の伝統文化や現代のものづくりへの問いなどを起点にする、独自のアナログカルなアプローチを用いて、素材や技術の特性・企業の思想やビジョンを体現するデザインを数多く手掛ける。奈良県生まれ。京都工芸繊維大学大学院修了。  
<https://naoiwamatsu.com>



Y.S.M Co., Ltd.





## 作品名

Stir

## デザイナーコメント

“Stir”は職人の手作業と機械による工場製造、2つのガラスの手法を組み合わせで作られた照明です。ガラスは人々に“柔らかさ”と“硬さ”2つの感覚を与えます。職人の吹きガラスで制作されたものは柔らかく、機械での製造は硬い印象があり、同じガラスでありながら全くの別の質感を感じる事ができます。異なった技法のガラスが上下に組み合わせ、1つの照明器具が出来上がることで、シェードの内部に光が浮き上がるような不思議な効果が生れます。Stirという言葉の意味と同じく、新旧の製造技術が混ざり合い新しいガラスのニュアンスを作り上げます。

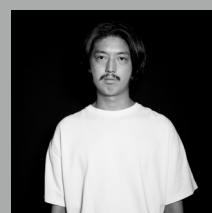
## Y.S.M コメント

試作段階でLEDを実際のガラスに合わせてみると、水面に光の柱が浮かび上がることがわかりました。その効果を最大限に生かすため、光源をガラスの内側に収め、器具自体はできる限りシンプルに。放熱を考慮しつつ、旋盤加工で限界までアルミを削り出しました。ピン角を残し、仕上げは鏡面のように輝かせることで、工業的な印象を排したデザインにしています。さらに電球色と白色の2種類に、調光器を組み合わせ、あらゆるシーンに対応できるよう提案しました。

## designer profile

## RYOSUKE AKAGI DESIGN

東京を拠点に建築、空間設計を軸に活動するデザイナー。住宅や店舗設計、展示会の会場構成などを手掛ける。空間にまつわるプロダクトや家具のデザインも積極的に行い、空間とモノの迫りから生み出される、新たな感覚や価値観を探索している。領域に囚われることなく手を動かしながら思考し、フィジカルな経験からアウトプットを行うことを心がけている。兵庫県生まれ 神戸芸術工科大学卒業。  
<https://ryosukeakagi.com>



## 展示会概要

|           |                                                                                                                                                                               |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| タイトル      | 「BEHIND THE LIGHT Vol.2」                                                                                                                                                      |
| 参加デザイナー   | AATISMO / Atelier matic × ONE KILN / Baptiste Vandaele / Hiroto Yoshizoe / JUNICHIRO YOKOTA STUDIO / Kotaro Usugami / NAO IWAMATSU / RYOSUKE AKAGI DESIGN                     |
| 会期        | 2025 年 10 月 16 日 (木) - 19 日 (日) 木金 16:00 - 20:00, 土日 12:00 - 20:00                                                                                                            |
| 会場        | TIERS GALLERY by arakawagrip [東京都渋谷区神宮前 5 丁目 7-12 TIERS 3F]<br>google map → <a href="https://maps.app.goo.gl/MwxZHGvFL96MwiYv7">https://maps.app.goo.gl/MwxZHGvFL96MwiYv7</a> |
| 入場料       | 無料                                                                                                                                                                            |
| 主催        | 株式会社ワイ・エス・エム                                                                                                                                                                  |
| 協力        | 荒川技研工業                                                                                                                                                                        |
| 展示ディレクション | BOOKSHOPBOYS                                                                                                                                                                  |

## company profile

株式会社ワイ・エス・エム



Y.S.M は想いを形にして関わる人の未来を照らし続けます。

Y.S.M は、特注照明のプロフェッショナルとして、設計・製造・施工・アフターフォローまで一貫して対応。LED や薄型導光板を用いたオーダーメイド照明を得意とし、一般的な電球照明にはない独自の形状や光り方を実現してきました。お客様と共に歩むモノづくりを通じて、光を超えたつながりと新しい価値を生み出しています。

|           |                                                                                                                                                                                                                |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 代表者       | 代表取締役 八島 哲也                                                                                                                                                                                                    |
| 所在地       | 本社・工場 〒340-0811 埼玉県八潮市二丁目 342 - 1<br>google map → <a href="https://maps.app.goo.gl/MwxZHGvFL96MwiYv7">https://maps.app.goo.gl/MwxZHGvFL96MwiYv7</a>                                                            |
| TEL       | 048-998-3610                                                                                                                                                                                                   |
| 会社設立日     | 1992 年 7 月 8 日                                                                                                                                                                                                 |
| WEB       | <a href="https://k-ysm.co.jp/">https://k-ysm.co.jp/</a>                                                                                                                                                        |
| instagram | <a href="https://www.instagram.com/ysm_products/">https://www.instagram.com/ysm_products/</a><br><a href="https://www.instagram.com/ysm.lighting.archive/">https://www.instagram.com/ysm.lighting.archive/</a> |

|         |                                                                                                 |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Contact | 株式会社ワイ・エス・エム 友田 e-mail: <a href="mailto:info@k-ysm.co.jp">info@k-ysm.co.jp</a> tel:048-998-3610 |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Press Contact | 本件に関するご取材、撮影、ご掲載に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。<br>PR サポート 山本 真澄 e-mail: <a href="mailto:masumi.y.pr@gmail.com">masumi.y.pr@gmail.com</a> mob: 090-4062-6361<br>Press Kit → <a href="https://drive.google.com/drive/folders/1ID8giZXu3cMcVEfYI-2Q1t4HFR5bs0E?usp=sharing">https://drive.google.com/drive/folders/1ID8giZXu3cMcVEfYI-2Q1t4HFR5bs0E?usp=sharing</a> |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|